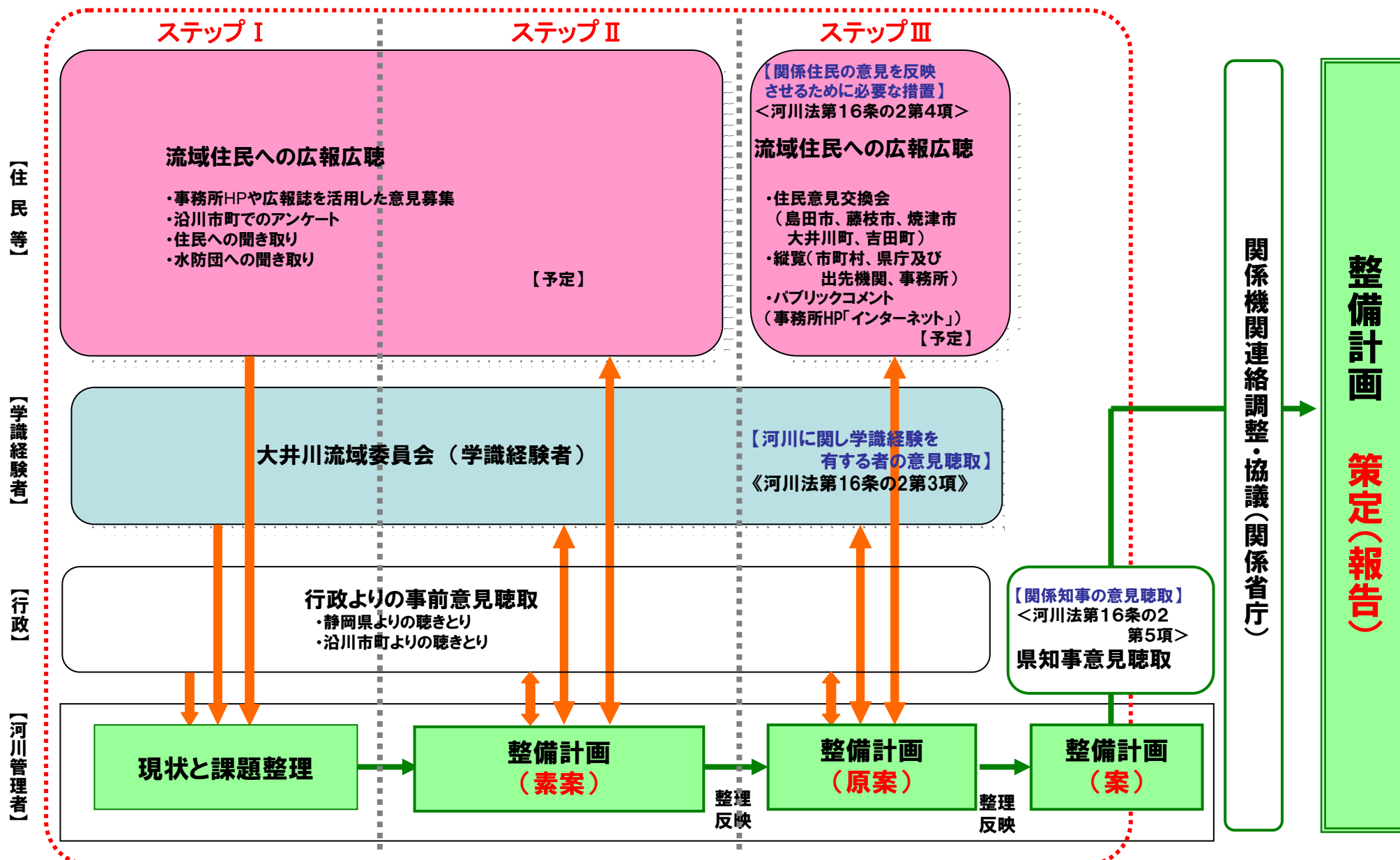


住民等の意見について

大井川水系河川整備計画策定の進め方【概念的フロー図】



住民等の意見について(沿川市町でのアンケート)

第2回 大井川
流域委員会 資料-3

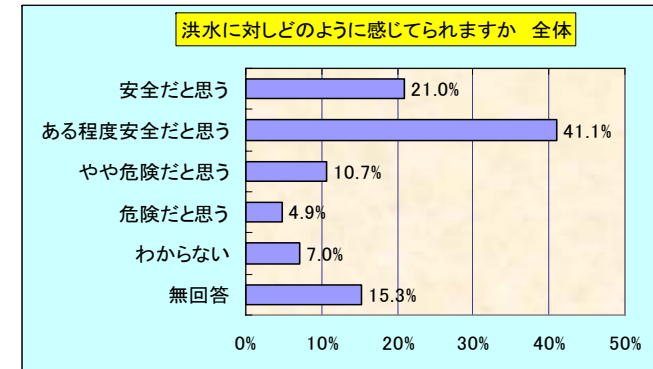
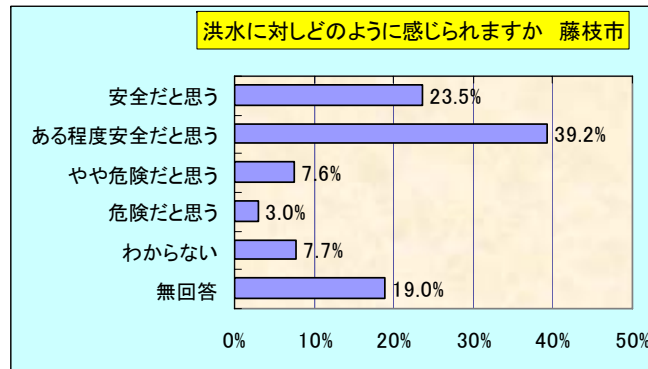
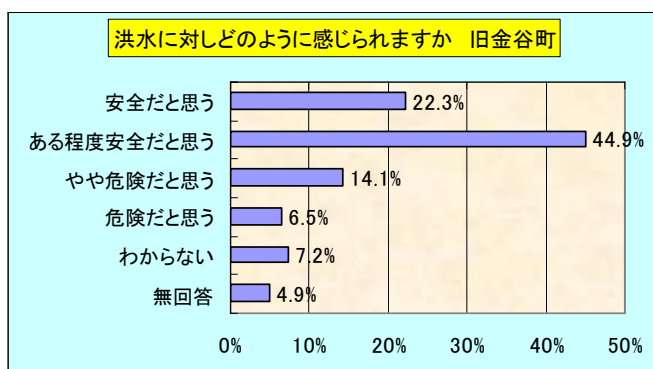
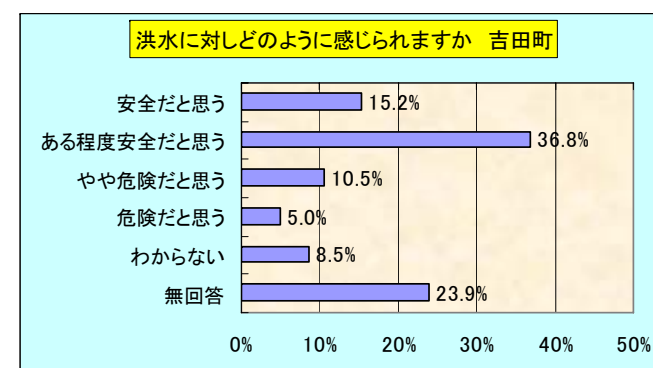
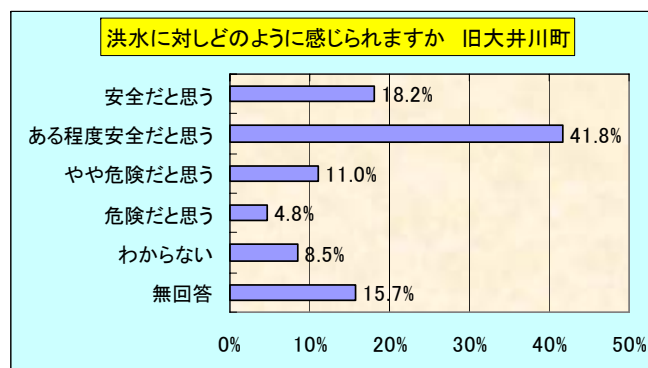
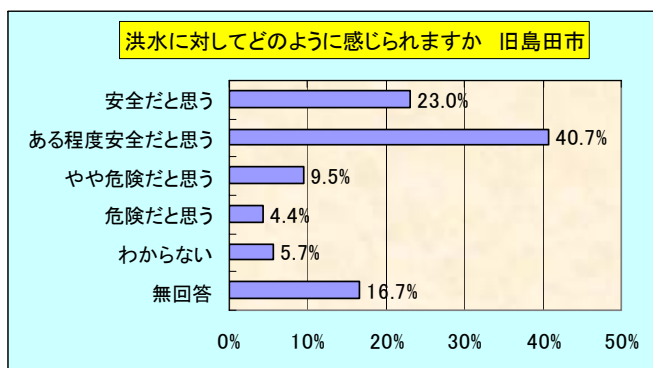
平成14年に島田市(旧金谷町含む)、旧大井川町(焼津市と合併)、吉田町の全世帯及び藤枝市の大井川沿川の住民を対象に、大井川の治水、利水、環境、その他全般についてアンケートを実施した。アンケートの回答数は約8,500件の結果である。

アンケート結果(選択式のアンケート)

治水に関する内容

洪水に対する安全性

・大井川の洪水に対する安全性は、どの地区でも6割程度が「安全」と感じている。

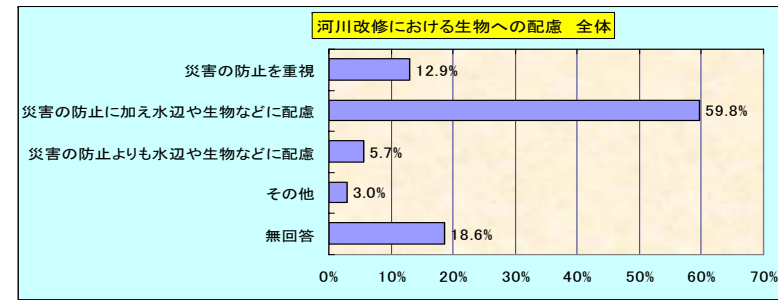
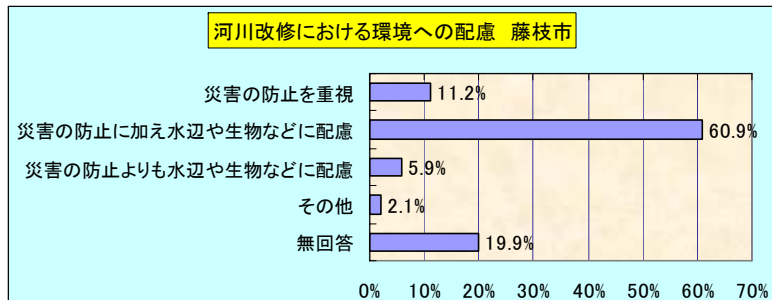
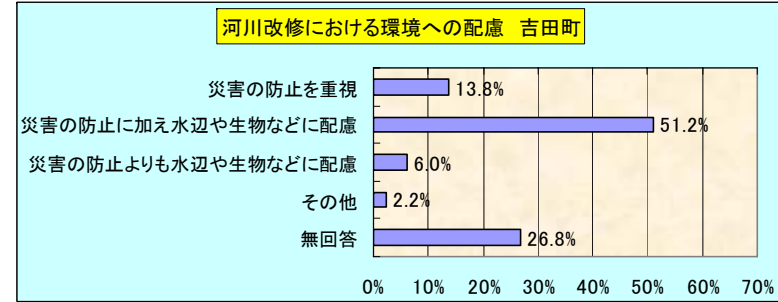
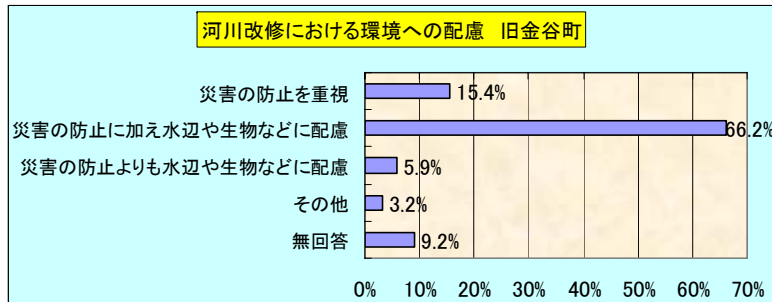
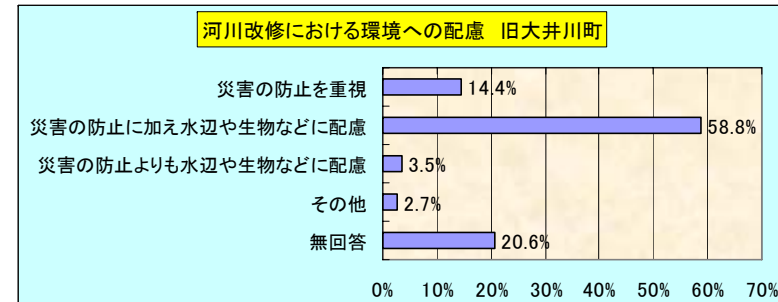
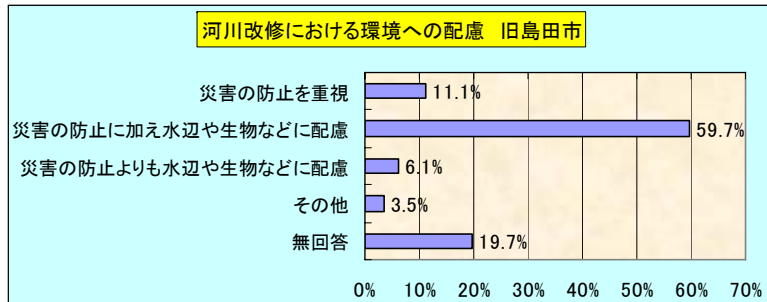


アンケート結果

治水に関する内容

河川改修における環境への配慮

・河川改修における環境への配慮については、災害の防止を優先しつつも水辺や生物などに配慮して欲しい意見が半数以上を占めている。また、地区による意識の差は見られない。

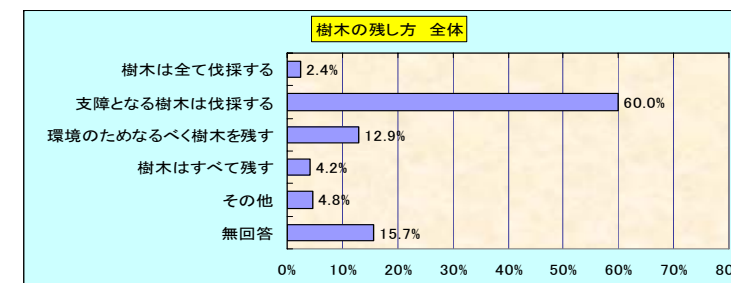
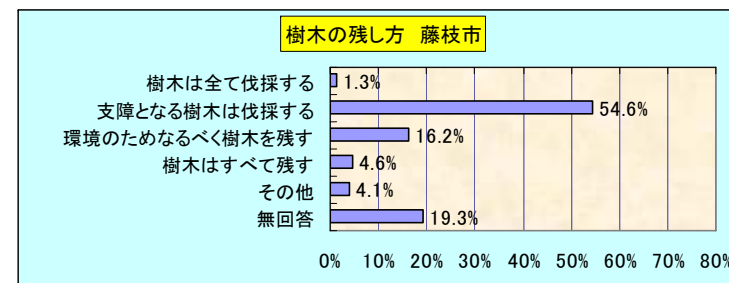
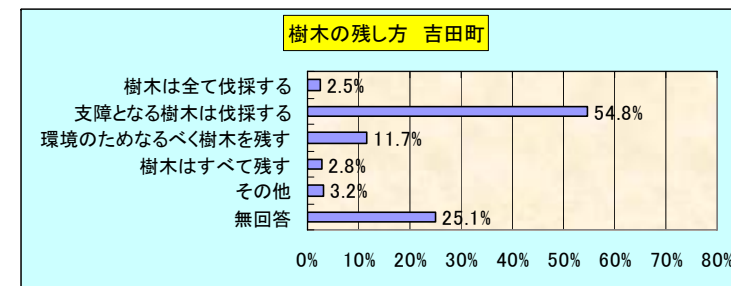
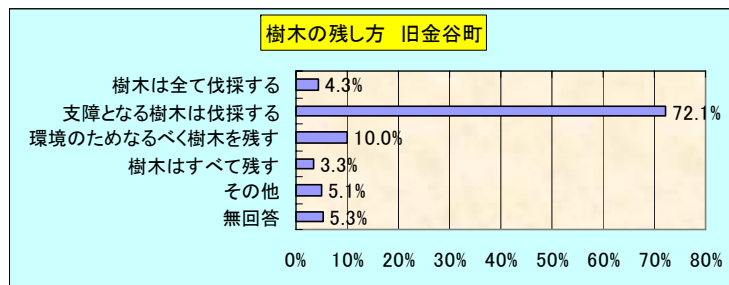
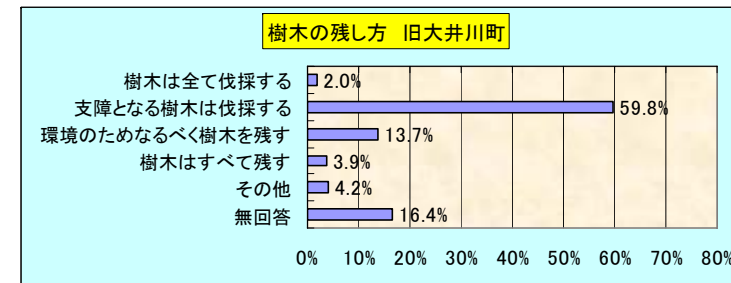
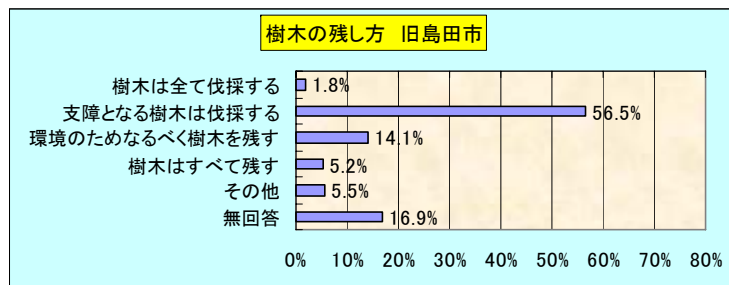


アンケート結果

治水に関する内容

樹木の残し方

・大切な自然であるが、水の流れを妨げ水害を引き起こす要因となる樹木については、支障となる樹木は伐採してほしいと考えている人が半数以上を占めている。特に、旧金谷町では伐採してほしいと考えている割合が他の地域と比べ高い。



住民等の意見について(沿川市町でのアンケート)

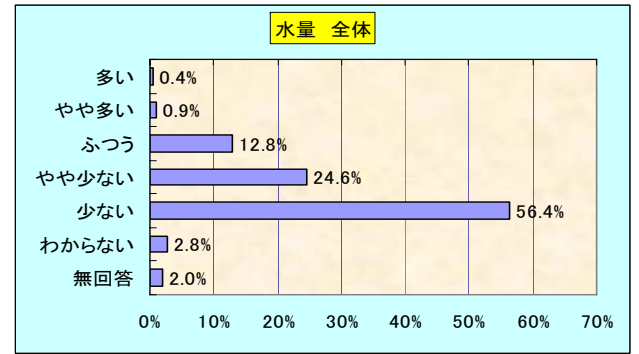
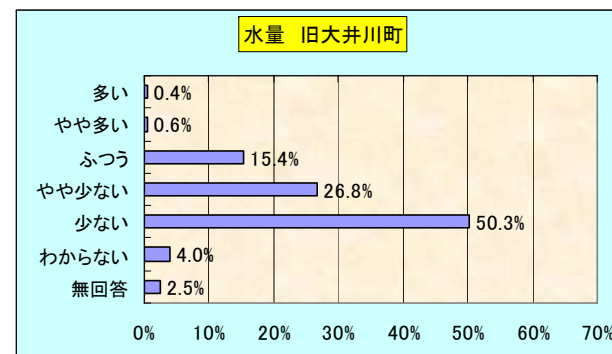
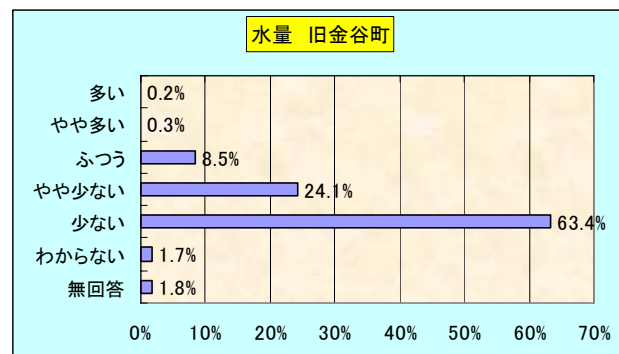
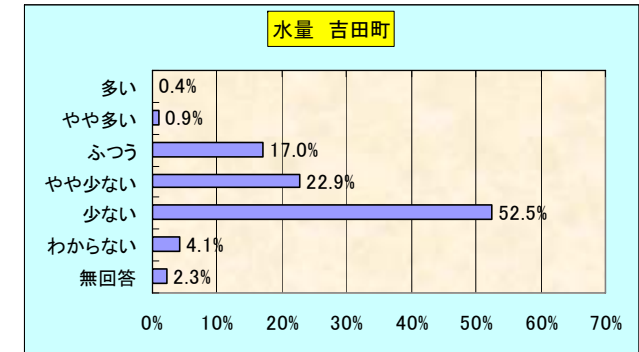
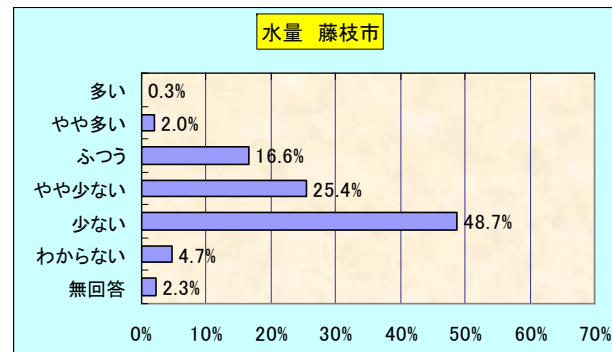
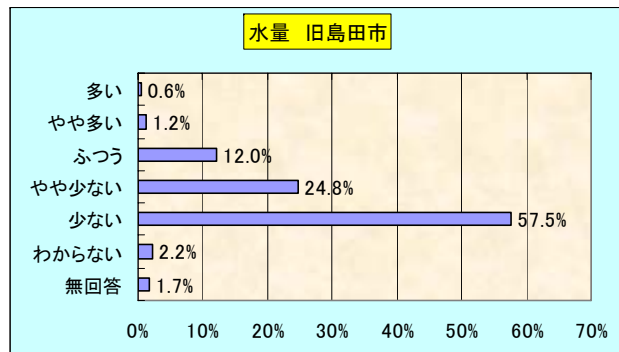
第2回 大井川
流域委員会 資料-3

アンケート結果

利水に関する内容

水量について

・大井川の水量について、「やや少ない」、「少ない」と感じている人が大半をしめている。特に、旧金谷町では他の地域と比べると少ないと感じている割合が高い。

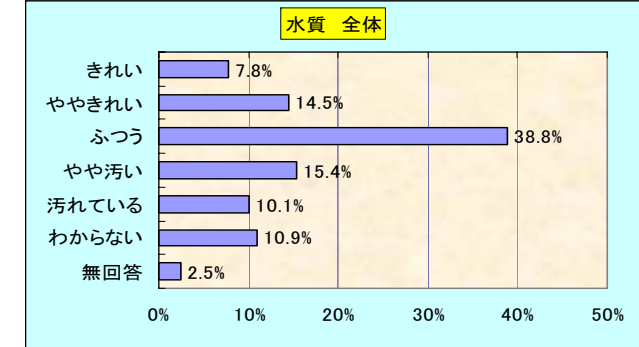
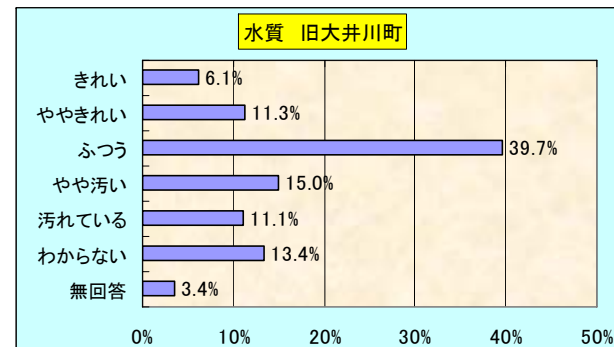
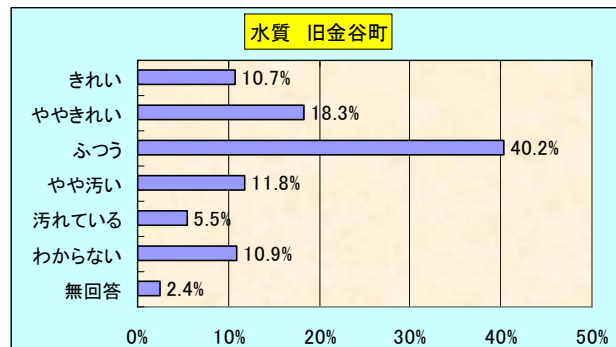
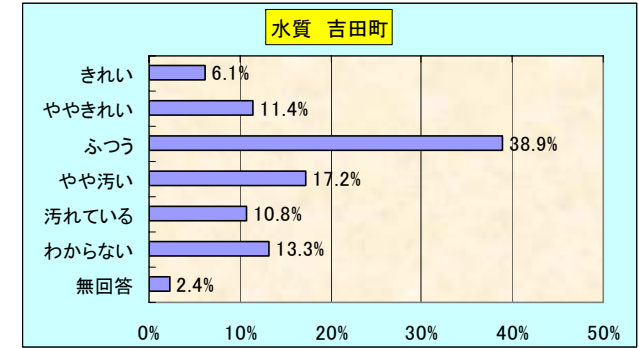
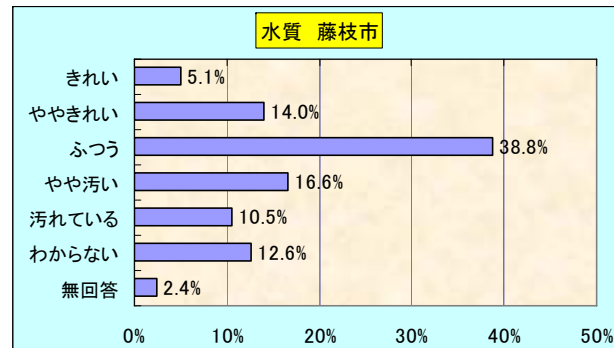
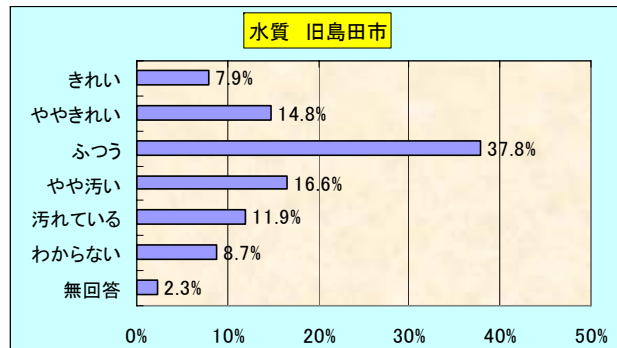


アンケート結果

利水に関する内容

水質について

- ・大井川の水質については、「ふつう」と感じている人が最も多い。
- ・次いで「やや汚い」と感じている人が多いが、旧金谷町では「ややきれい」が多い。

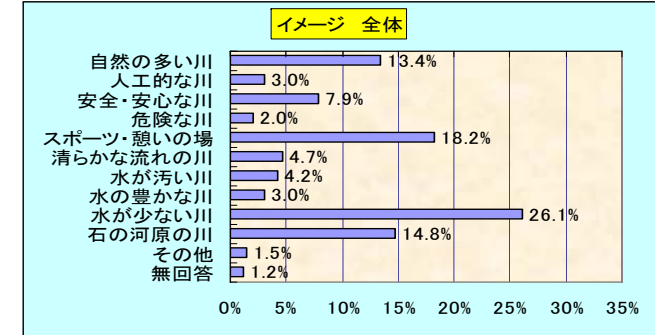
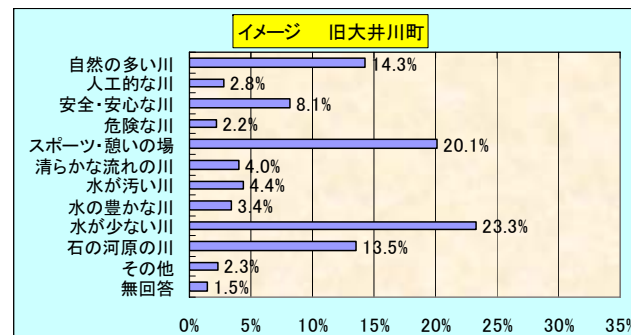
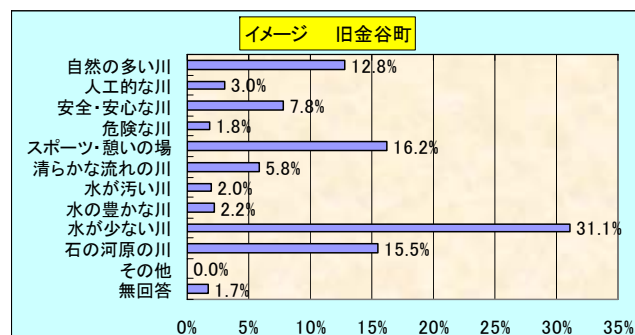
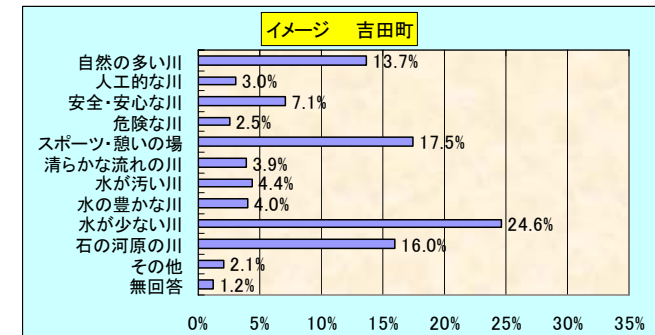
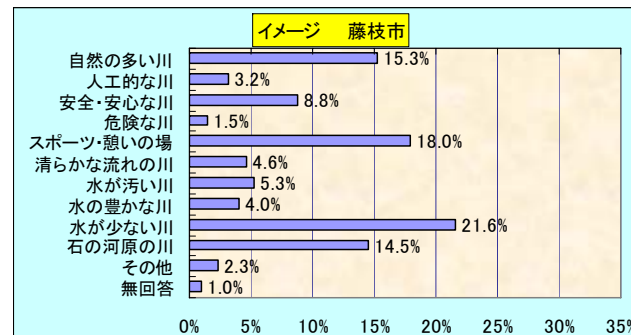
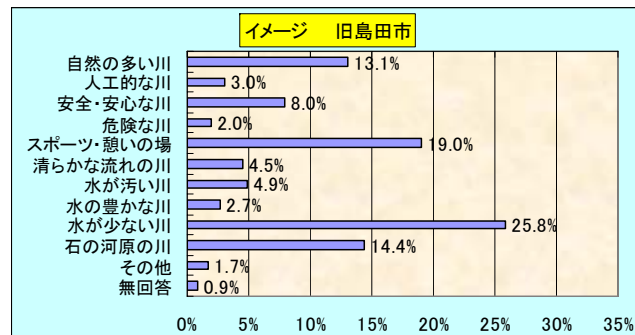


アンケート結果

環境に関する内容

大井川のイメージ

- ・大井川のイメージについては、「水が少ない」と感じている人がどの地域でも最も多く、また石河原の河川が大井川の姿であるとイメージしている。
- ・そのほか、大井川を「スポーツ・憩いの場」として捉えている人も多い。

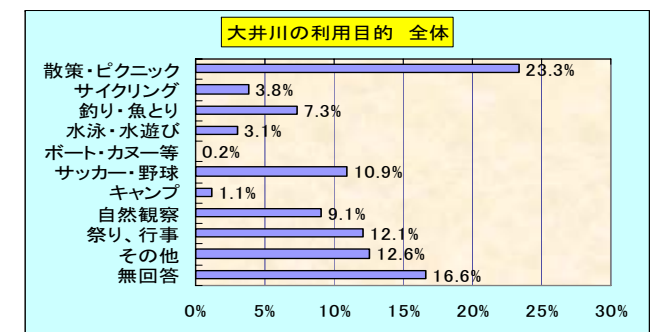
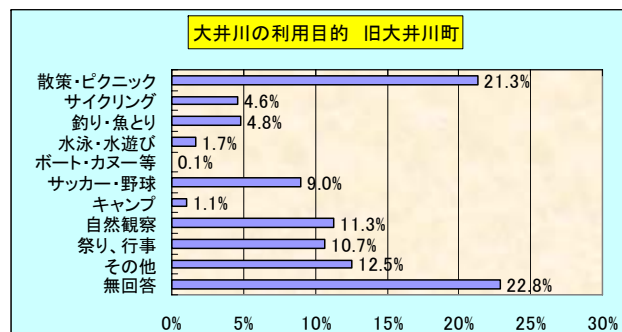
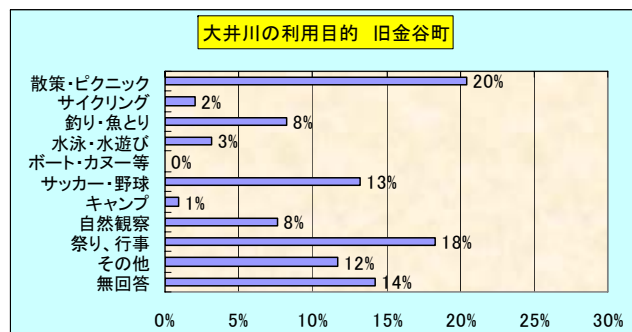
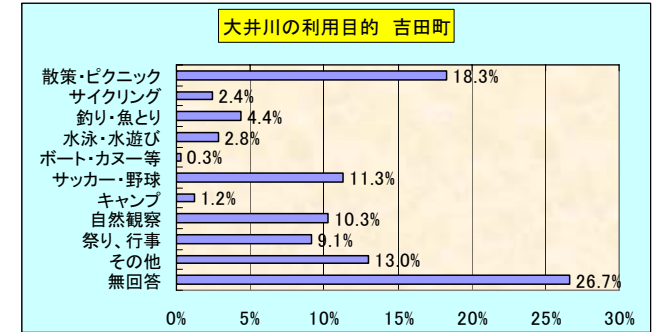
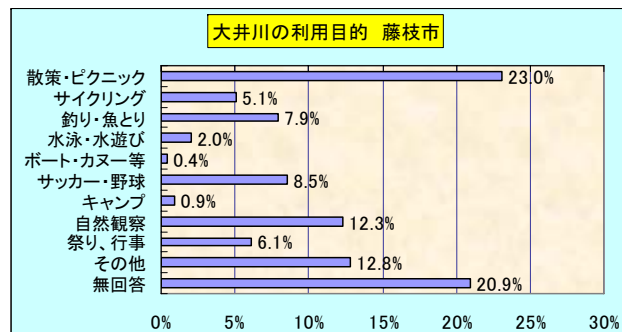
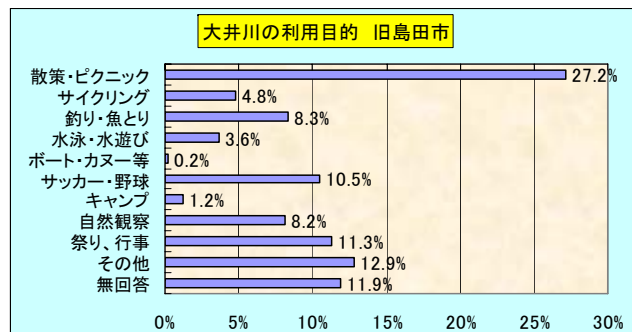


アンケート結果

環境に関する内容

大井川の利用目的

- ・大井川の利用目的は、「散策・ピクニック」で訪れる人がどの地域でも最も多い。
- ・旧島田市、旧金谷町、吉田町では、「サッカー・野球」などスポーツを目的に訪れる人が多い。
- ・藤枝市、旧大井川町では、「自然観察」で訪れる人が多い。
- ・旧島田市、旧金谷町では、「祭り・行事」で訪れる人が多い。



アンケートによる主な意見(自由筆記式のアンケート)

治水に関する意見(84件)

- 自分が住んでいるところは堤防が低く不安である。早く工事をして欲しい。
- 自然も大事であるが、護岸工事を第一に行って欲しい
- 中州の樹木は大水の時、流水の妨げとなっているため伐採して欲しい。
- 全てをコンクリートで固めるのではなく、石積みなど自然的な工法にして欲しい。また、大聖牛等の昔の工法を取り入れて欲しい。
- 地震が発生した際のダムや堤防の安全が心配である。対策をして欲しい。
- 「東海地震」の時は、河川敷は重要な補給基地、けが人などの輸送基地となるので、高水敷と多目的道路の整備をして欲しい。

利水に関する意見(69件)

- 河川流量が少ないため、ダムからの放流量を増やして欲しい。
- 大井川の水は、各地の用水になくってはならないため、引き続き利用できるようにして欲しい
- 流量を多くし、地下水を増やして欲しい

環境に関する意見(420件)

- 大井川がいつまでも野鳥の聖地として欲しい。
- 水辺で釣りができ、魚がたくさん住めるような川にして欲しい。
- 河川敷の樹木が少なすぎるので、夏季の利用時に日陰となる樹木整備をして欲しい。
- 工場の排水口より下流の水が臭くて汚い。規制をして欲しい。
- 蓬莱橋を末永く残して欲しい。また、蓬莱橋周辺を散策できる場所を整備して欲しい。
- マラソンコースとしての多目的道路の整備、スポーツ、散策などができる高水敷整備をして欲しい。
- 堤防から水際に降りやすい工夫をして欲しい。
- ゴミの不法投棄、ホームレス対策をして欲しい。

土砂管理に関する意見(6件)

- ダムによって上流から土砂が流れてこないため、海岸線も後退していることから対策をして欲しい。
- 河口に堆積する砂利を定期的に除去して欲しい

河川全般に関する意見(43件)

- 大井川に触れ合うイベントを考えて欲しい
- 大井川の魅力をアピールして欲しい

聞き取りによる主な意見

治水に関する意見

- 牛尾山開削工事を早く完成して欲しい。
- 河口の水は吉田町へ流れていき、ほかには完全に閉塞している。地震や台風を考えると河口の砂州をとって欲しい。
- 神座地先の堤防の計画高不足や弱小堤防箇所の早急な嵩上げ工事と低水護岸整備をして欲しい。
- 中州の樹木は、増水時に流向を変化させ、護岸洗掘や流木を発生させることから、維持管理をして欲しい。
- 護岸がまだ昭和初期の蛇カゴであり、早急に護岸整備に取り組んで欲しい。
- 治水安全度は高くなったと認識しているが、近年の異常豪雨や東海地震への安全性の確保をして欲しい。
- 災害に備えるための緊急用河川敷道路として、多目的河川敷道路の延伸整備をして欲しい。
- 局所的豪雨に対応するためにも、沿川自治体が出水時のダム放流量や河川水位などの防災情報をリアルタイムで確認できる情報共有システムを整備して欲しい。

利水に関する意見

- 流量確保は気候緩和機能がある。生活環境やお茶の為にも川霧を復活させたい。(中流部)
- 水のない町にとって大井川は重要な資源。もっと有効に活用されるように皆で知恵を出し、流域で大井川の水を有効活用できればと感じている。

環境に関する意見

- 下流部からみると柳の繁茂は問題もあるが、一部では魚や植物にとって良い自然環境を形成しているため、これらの環境保全をして欲しい。
- 水質が悪く、小魚がいなくなった。大井川の清流を取り戻して欲しい。(中流部)
- 河川空間利用は積極的に活用している。今後も東海地震時の様々な拠点として活用していきたい。
- 河川利用者のマナーやルールづくりをして欲しい。
- 立ち木が根こそぎ流れると、漁の網にかかると取れないため、河川内樹木を伐採して欲しい。

土砂管理に関する意見

- 河口では河川敷のグランドよりも高く砂州がついている。流れを川の中央にして河口出口を作ってほしい。
- 川の治水と海岸保全の両面から、川の土砂を海岸侵食防止に役立てることを進めて欲しい。
- 焼津海岸、大井川町の海岸侵食が激しい。海岸侵食対策、サンドバイパスを続けて欲しい。

河川全般に関する意見

- 住民に川への関心を高めてもらう必要がある。
- 子供たちの教育の場で大井川を取り上げてほしい。(中流部)

これまでの対応

ダム建設の経緯

昭和3年 → 田代

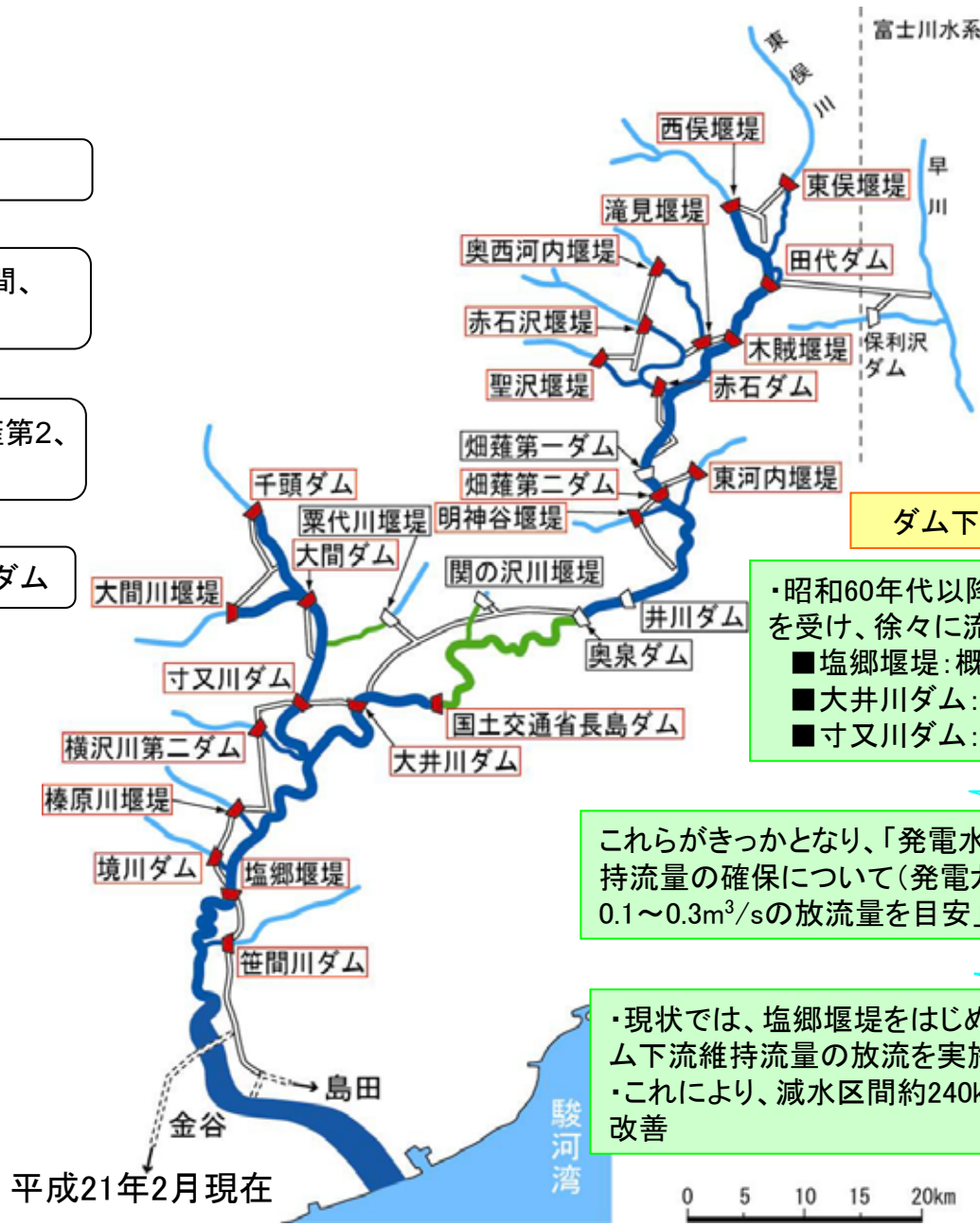
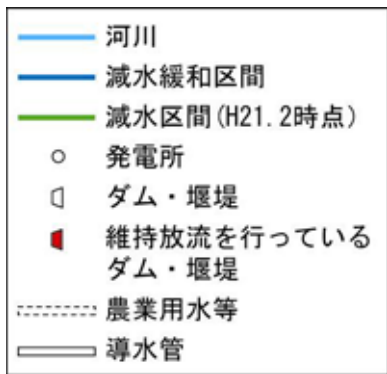
昭和10年代 → 大井川、寸又川、千頭、大間、境川

昭和30年代 → 奥泉、井川、畑薙第1、畑薙第2、笹間川

平成2年 → 赤石、平成14年 → 国交省長島ダム

大井川の水利用

・昭和30年代までに発電ダム建設が相次ぎ、発電用水が取水されたため、平常時には河川に水が流れない状態となった



ダム下流維持流量の放流

・昭和60年代以降、地域住民等からの要望を受け、徐々に流況改善が進められた

- 塩郷堰堤: 概ね夏季 $5\text{m}^3/\text{s}$ 、冬季 $3\text{m}^3/\text{s}$
- 大井川ダム: $2\text{m}^3/\text{s}$
- 寸又川ダム: $1\text{m}^3/\text{s}$

これらがきつかとなり、「発電水利権の更新時における維持流量の確保について(発電ガイドライン): 100kmあたり $0.1\sim 0.3\text{m}^3/\text{s}$ の放流量を目安」が昭和63年7月に制定

・現状では、塩郷堰堤をはじめとする19のダム、堰堤でダム下流維持流量の放流を実施
・これにより、減水区間約240kmのうち約222kmの流況が改善

河川維持流量の補給

田代ダム維持流量の通過

「大井川水利流量調整協議会(H15.2.6~H17.11.28)」
 目的: 田代第二発電所の水利権更新に際し、富士川へ取水されていた水の一部を、下流へ放流する必要量について調整
 【協議会での合意事項】

- ・「発電ガイドライン」の目安とされる放流量 $0.1\sim 0.3\text{m}^3/\text{s}/100\text{km}^2$ を大きく上回る $0.9\text{m}^3/\text{s}/100\text{km}^2$ を放流
- ・発電水利権の更新期間を短縮(15→10年)
- ・田代ダムからの新たな放流量を中電ダムを通過し河口まで維持して放流
- ・合意事項により増えた維持流量を、事業者から地元行政に毎週連絡するなど情報共有を図っている



放流後 (H17.12.21 中日新聞)

平成21年3月現在



ダム下流維持流量の放流

・奥泉ダム、関の沢川堰堤、栗代川堰堤については、H21.3から維持流量の放流を開始し、全ての中部電力ダムにおいて一定の基準を達成

濁水長期化への対応

今までの対応

・清水バイパス、濁水拡散防止膜の設置等により、白濁化の改善を実施中

大井川ダム直下濁水対策に係る技術検討会

目的

・学識経験者の指導・助言を受けながら地元行政と事業者が河川管理者を交えて、大井川ダム直下の実効性の高い濁水対策案を技術的な面で検討することを目的としている。

【技術検討会の委員構成】

- 学識経験者
- 地元行政(川根本町)
- 事業者(中部電力)
- 河川管理者(国、県)

【開催経緯】

- 第1回 平成20年7月3日
- 第2回 平成20年10月21日
- 第3回 平成21年2月19日

検討概要

(1)濁水発生原因

・常時、河川維持流量を下流へ放流している大井川ダムでは、奥泉発電所の放流水がダム湖に流入しており、上流の井川ダム湖が濁った場合には大井川ダム湖にもその濁った水が流入するため、大井川ダム下流から寸又川合流までの河川において濁水の影響が見られる場合がある。

(2)濁水対策案

- ・濁水影響対策として、実現性が高く、濁水低減効果も期待でき、寸又川ダム等でも採用実績がある「清水バイパスの設置」を採択した。
- ・清水の供給源として、長島ダムからの放流水と寸又川の大間発電所放流水の2案で検討し、濁水の低減効果の高い長島ダムからの放流水を採用した。



今後の予定

・平成21年度より詳細な現地調査・設計や河川管理者との協議等を開始し、必要な許認可手続きを終えた後、2年程度の工事期間を経て設備の供用を開始する予定である。